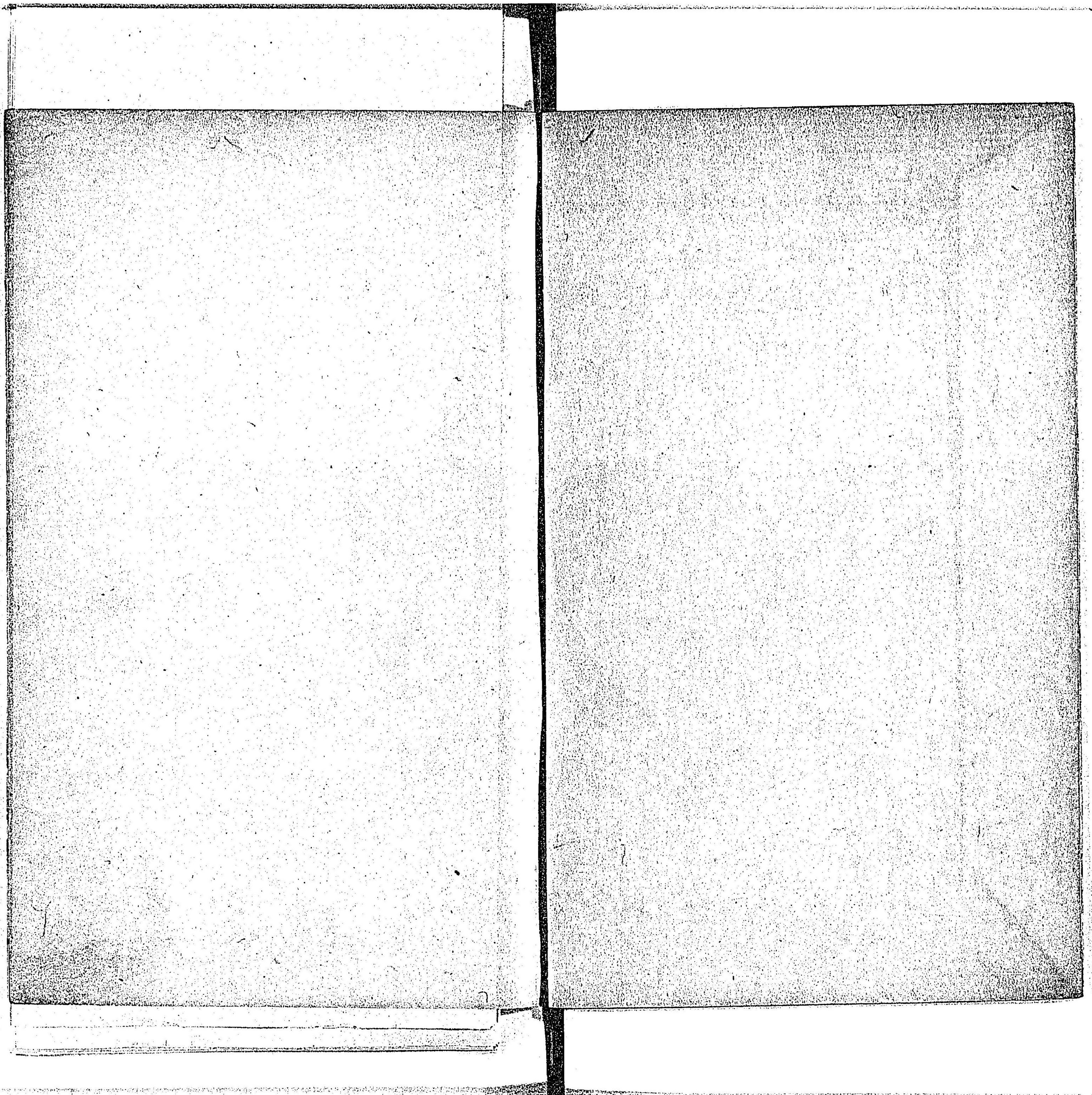


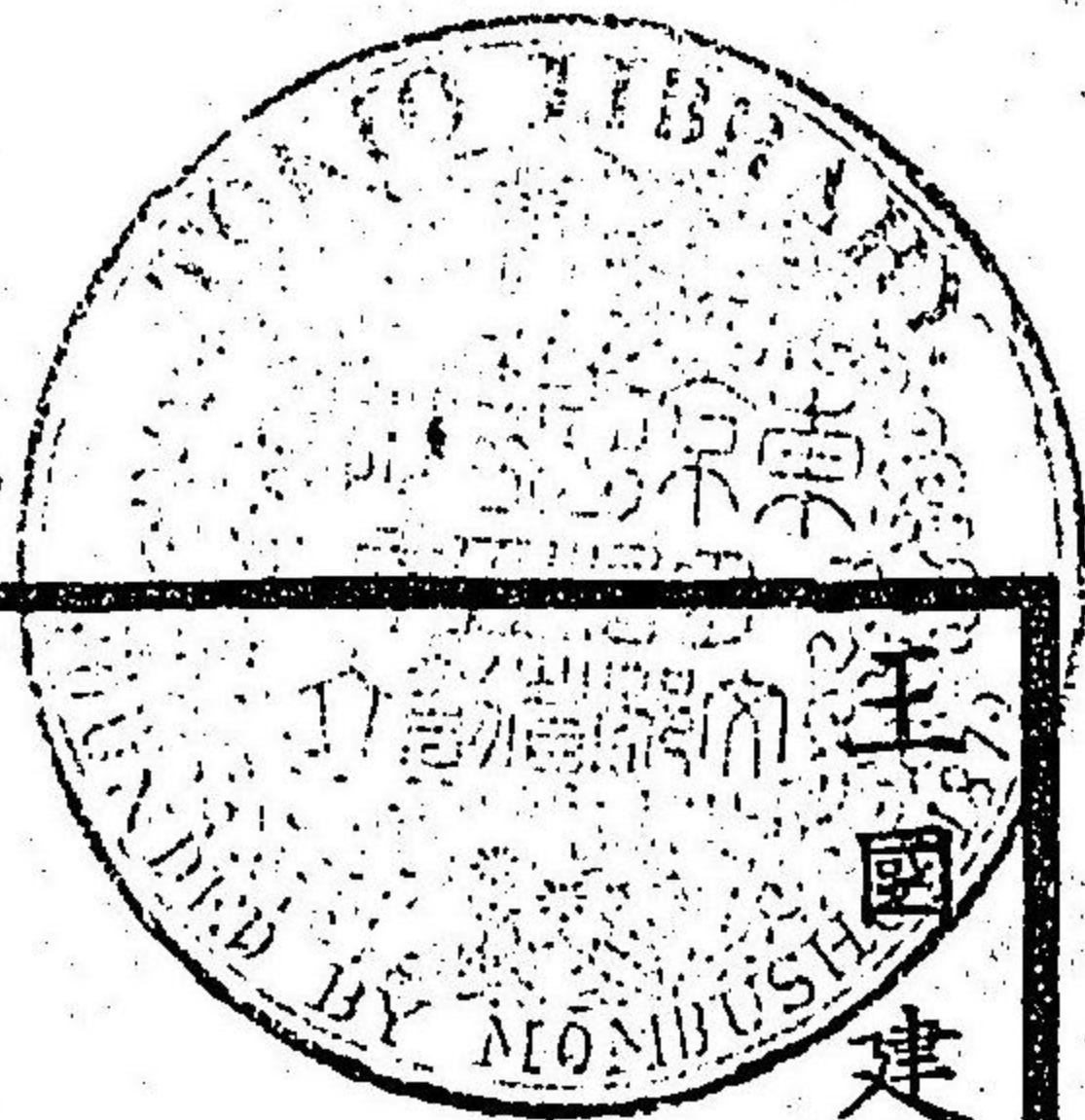
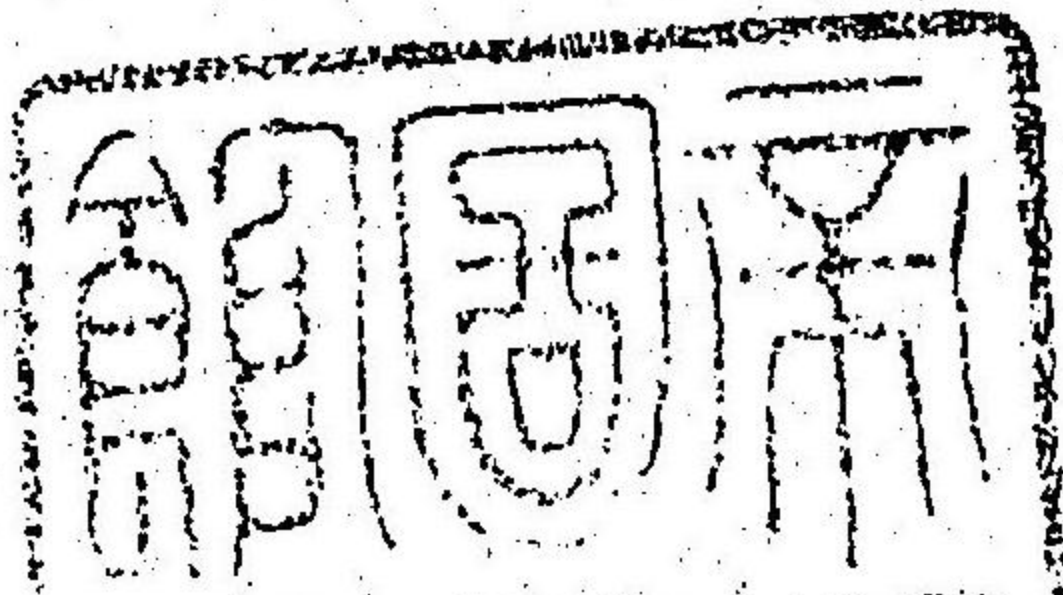
一國建國法 第二

東京圖書館

二册	九四号	五架	二函	屬類
----	-----	----	----	----

2
94
共
二
本
新十三六





建國勅諭
宣稱
法

明治八年文部省交付

千八百三十一年四月七日公布

國會宣布

第一章 地土及分割

第一條

白耳時國、分テ數州トス、

即チ、アシウエルス、アラバン、アラシンドル、オクシタ

ンタ、ヒ、エーノ、リエジ、ラングー、ル、リユキダング

一、此、ナ、ユル、是、レ、ナリ、但、シ、リ、ユ、キ、ザ、ン、ブ、ー、ル、ハ、又、
日耳曼同盟ノ中ニ在リ、リ、ユ、キ、ザ、ン、ブ、ー、ル、ハ、一、州、兩、屬、
若、更、ニ、分、割、シ、テ、州、ヲ、置、ク、リ、ユ、キ、ザ、ン、ブ、ー、ル、ハ、一、州、兩、屬、ヲ、要、ス、ル、リ、ユ、キ、ザ、ン、ブ、ー、ル、ハ、一、州、兩、屬、ハ、其、ノ
權、法、章、ニ、属、ス、君、民、共、議、ヲ、待、ツ、君、民、共、議、ヲ、云、

第二條

州内ノ分區ハ、法章ニ由ルニ非ス、テ、設クルヲ
得ズ、

第三條

國、及、ヒ、州、邑、ノ、疆、界、ハ、法、章、ニ、由、ル、ニ、非、レ、バ、變、改、
及、復、舊、ス、ル、リ、ユ、キ、ザ、ン、ブ、ー、ル、ハ、一、州、兩、屬、ヲ、得、ズ、皆、行、政、權、ヲ、專、ニ、
ス、ル、所、ニ、ア、ラ、ズ、

第二章

伯耳時人、及伯耳時人權利

第四條

伯耳時人タルノ身分ハ、之ヲ得、之ヲ保チ、及之ヲ
失フ、リ、ユ、キ、ザ、ン、ブ、ー、ル、ハ、一、州、兩、屬、民法ニ由テ定メタル規例ニ從フ、

伯耳時人タル身分外ニ、此ノ建國法、及它ノ政

權即チ人民ノ公權ヲ指ス、ニ係リタル諸法章、政

權ノ受用ノ爲ニ欠ケ、リ、ユ、キ、ザ、ン、ブ、ー、ル、ハ、一、州、兩、屬、カ、ラ、ザ、ル、約、束、リ、ユ、キ、ザ、ン、ブ、ー、ル、ハ、一、州、兩、屬、ヲ、定、ム、リ、ユ、キ、ザ、ン、ブ、ー、ル、ハ、一、州、兩、屬、身

ハ、私權ナリ、推選應選ノ政權ト、リ、ユ、キ、ザ、ン、ブ、ー、ル、ハ、一、州、兩、屬、ニ、ツ、リ、ユ、キ、ザ、ン、ブ、ー、ル、ハ、一、州、兩、屬、者、合、セ、リ、ユ、キ、ザ、ン、ブ、ー、ル、ハ、一、州、兩、屬、テ、知

リ、及自由ヲ失ハザルノ人、リ、ユ、キ、ザ、ン、ブ、ー、ル、ハ、一、州、兩、屬、始メテ政權ヲ得ルノ類、

第五條

歸化ハ、外國人歸化シテ、立法權ニ由リ、之ヲ許ス
佛蘭西ニ於テハ、行政權ニ屬ス、

政權ノ受用ニ於テ、外國人ヲシテ、白耳時人ニ合
同セシムルヲ、獨リ大歸化ニ止マシムル、歸化法、大歸
化アリ、民法ニ詳ナリ、小歸化ハ、以テ私
權ヲ得ルモ、以テ公權ヲ得ルニ足ラズ、

第六條

國中、一ノ種族區別アルヲナシ、白耳時舊法、國民
族、ニ都、族、三、部族、是
レナリ、今、之ヲ廢ス、
凡ソ白耳時人ハ、法章ノ前ニ平等トス、唯、白耳時
人タル者、唯、白耳時人タルノ身分アル、文武ノ官

二二

ニ任スルヲ得、但シ法章ニ特條ヲ定ムル者ハ、
例ニアラズ、瘋癲人、禁權人ノ類、

第七條

人身自由ハ、保固タリ、
法章ニ掲ケタル時機ニ於テシ、及法章ニ示ス所
ノ規程ニ於テスルニ非レバ、何人モ、糾治ヲ受ル
ルナシ、糾治ハ、人身自由ヲ制減ス、故ニ唯、法章、
其ノ時機ヲ定ム、然ルニ亦各規程アリ、
現行犯ヲ除クノ外、因由ヲ注明シタル法官ノ令
狀何ノ理由ヲ以テ拿捕ヲ命ス、ニ据ルニ非レバ、
何人モ拿捕セラル、トナシ、其ノ令狀ハ、必ス拿

司法官

捕ノ即時、若クハ遅クモ二十四時内ニ、之ヲ宣示
スベシ、正本ヲ示シテ、副本ヲ付ス、是レヲ宣示式
トス、被吉人宜示テ得テ、其ノ因由ヲ知ル、

第八條

何人モ、其ノ情願ニ非ズシテ、法章ノ付與スル所
ノ法官ニ阻隔サル、一無シ、法章付与スル所
法諸法官是レナリ、行政官ヨリ、之ヲ阻
隔シテ、平允ノ裁ヲ奪フコトヲ得ズ

第九條

何等ノ刑モ、法章ニ由ルニ非レバ、之ヲ設ケ、及之
ヲ科スルコトヲ得ズ、王命ハ、刑ヲ設クルコトヲ得ズ、
刑ヲ設クルハ、必ス法章ニ由ル

第十條

住居ハ、侵スベカラヌトス、法章ニ掲ケタル時機
ニ於テシ、及法章示ス所ノ規程ニ於テスルニ非
レバ、住居ノ檢探ヲ行フコトヲ得ズ、治罪法ニ依ル
探ニ進入シテ檢
探スルコトナシ、

第十一條

公益ノ故ニ由リ、及法章ニ定メタル時機ニ於テ
シ、及法章ニ定メタル方式ニ依リ、而シテ正當ナ
ル事前賠償ヲ以テスルニ非レバ、何人モ其ノ私
有ヲ褫ハル、一無シ、公益奪私
有ノ權ヲ侵スコトナシ、

第十二條

財産歿入ノ律ヲ設クルヲ得ズ、

第十三條

准死律ヲ廢ス、再タヒ設クルヲ得ズ、准死ハ死ヨリ酷ナリ

第十四條

教門ノ自由、禮拜公行祝儀ヲ云、ノ自由、及一切ノ方法ヲ用ヒテ、書画言論ヲ論セズ、志意ヲ著スノ自由ハ、保固トス、但シ其ノ自由ヲ行フニ因テ犯シタル罪過ノ懲罰ハ、例ニアラズ、誣証ノ類、

第十五條

何人モ、教門ノ行事及禮拜ノ爲ニ、何等ノ方法ヲ

以テ之ヲ贊テ行フ、及其ノ休日日曜日ヲ守ル、
一ニ、強逼サル、一無シ、已ニ教門ノ自由ヲ許シ、
由ヲ許ス、○英ニ於テハ、日曜
日ヲ守ラザル者ハ、罰アリ、

第十六條

政府ハ、僧官ノ撰命及建立ニ干預スルノ權ヲ有セズ、又僧官ノ其ノ首長ト交際スルヲ禁シ、及其ノ文書ヲ公布スルヲ禁スルノ權ヲ有セズ、但シ文書公布ニ付テハ、著刻及公布ノ爲ノ普通

ノ任責法ニ從フ、著刻律ノ通

民婚法ハ、民法婚約ハ、民籍官必ス毎ニ婚祝

婚ヲ約スニ先スベシ、古昔、教門、婚配ノ柄ヲ執ルノ俗、今之ヲ民籍官ニ歸ス、但シ臨時法章ニ由テ定ムル特免ハ、限ニアラズ、特法ハ、犯人多キ、
ヲ慮ルニ起ル、

第十七條

教授ハ、自由タリ、一切ノ防制ハ、之ヲ禁ス、其ノ過夫ノ懲罰ハ、法章ニ由ルニ非レハ、之ヲ定ムルヲ無シ、
文部官ノ專ニス、
政府ノ給費ヲ以テ與フル普通學小學ハ、均シク法章ニ由テ、之ヲ定ム、

第十八條

著刻ハ、自由タリ、監査法ハ、設クルヲ得ズ、著述人公布人、印刻人ヨリ、豫納金ヲ徴スルヲ得ズ、
若、著述人ノ名ヲ顯ハシ、及其ノ白耳時ニ住居シタル時ハ、公布人印刻人及發兌人ヲ糾治スルヲ得ズ、
刑法ニ、著刻ノ王及王族ヲ侵ス者、及外國君主ヲ侵ス者ハ、罪アリ、此ノ條、著述人ヲ知シテ、公布人印刻人發兌人ヲ坐セバ、傳著述人罪ヲ治ム
ルヲ云

第十九條

凡ソ白耳時人ハ、兵器無ク、平穩ニ、集會スルノ權ヲ有シ、此ノ權ノ受用ヲ定ムル所ノ法章ニ循フ、

然レモ官ニ乞テ前許スルヲ要セズ、
此ノ條規ハ、露場ニ會スル者全ク警察ノ法ニ從
ルベキ者ニ准用セズ、露場トハ、街衢庭園、凡ソ
家屋ナキ者、皆是レナリ、

第二十條

自耳時人ハ、會社ヲ結フノ權ヲ有ス、此ノ權
ハ、何等ノ防制方法警察ノ法云、ニ從フヲナシ、

第二十一條

各人ハ、官ニ向テ、一名、若クハ衆名ノ上言書ヲ進
ムルノ權ヲ有ス、衆名連署、仍一名ニ同シ、
連衆一名ト同カラズ、

連衆一名ノ上言書ヲ進ムルノ權ヲ有スル者、特

何官若クハ何院ト稱シテ、
各人ノ名ヲ署セザルヲ云、
ハ、各名ヲ用フ何社何
會ト稱スルヲ得ズ、

第二十二條

信書ノ秘密ハ、侵スベカラズ、
郵便信書ノ秘密ヲ破リタル者アレバ、開緘シク
ルヲ云、

其ノ吏人何カ責ニ任スベキヲ、法章之ヲ定ム、

第二十三條

自耳時國ニ於テ通用スル諸種ノ言辭ヲ用フル
ハ各人ノ隨意トス、特ニ官府ノ文書及裁判事件ノ
為ニハ、法章ニ由テ之ヲ定ムルコトヲ得、公文ハ、
必ス佛

用語

第二十四條

官吏職務ノ事ニ付キ、私罪ヲ論ス追糾ヲ行フ爲
ニ、前許犯人本属長ヲ要スルヲ無シ、司法檢職ノ
但シ諸執政ニ係テ、法章特定スル者ハ、例ニアラ
ズ、

第三章

政權之政事

第二十五條

凡テ政權ハ、國民ヨリ生ス、國民アリテ、政府アリ、
皆國民ニ本ツク、○是レ佛國建國法ニ依ル者ニ
ノ、佛國變革黨ノ説ニ本ツク、普魯西政學家ノ取

二七

所ナリ ○政權ヲ行フハ、建國法定ル所ノ模範ニ循フ

第二十六條

立法權ハ、國王及代議士院、下院及上院ニ由テ、共同
シテ之ヲ行フ、國王、ニ院ト立法權ヲ分有ス、

第二十七條

起議ノ權ハ、立法權ノ三枝國王上院各之ヲ有ス、議
ヲ發スルノ權、○三枝平均トス、

然レモ國計及徵兵ニ係リタル諸法ハ、必ス最先
ニ代議士院ノ公評ヲ取ルベシ、下院上院上ニ居ル、

第二十八條

法章ノ申明、疑條ヲ以テ定例ノ大權ヲ爲ス者ハ、
一、タヒ、申明ヲ經、獨リ立法權ニ屬ス、司法官ノ明
後日ノ例據タリ、テ既往ヲ裁メ、以テ未來
テ既往ヲ裁メ、以テ未來
ヲ例スベカラザルヲ云、

第二十九條

行政權ハ、國王ニ屬スルヲ、臣人干、建國法ニ定ム
ル所ノ如シ、第六十
條以下、

第三十條

司法權ハ、上下裁判所ニ由テ之ヲ行フ、政府干
得、
スルヲ

第三十一條

各邑各州ノ利益ハ、建國法ニ定メタル元則ニ從
ヒ、第百八邑會州會ニ由テ、之ヲ議定ス、
條以下

○第一部 兩院

第三十二條

兩院ノ議員ハ、全國民ノ總代タリ、獨リ議員ヲ撰
派スルノ一州若クハ一區ノ代人タルニ止マラ
ズ、舊法、議員ハ、一州一區ノ代人トシテ、必ス其ノ
所出ノ地方人民ノ求望ヲ達スルニ任ス、今、之
ヲ改ム、

第三十三條

兩院ノ會ハ、公行トス、公聽、ヲ
許ス、

然レモ、各院、其ノ議長、若クハ議員十人ノ求望ニ依リ、密會ヲ行フ、

繼テ全勝法ヲ用ヒ、其ノ事件ニ付キ、密會ヲ以テ議シタルノ事件、公會ヲ以テ、再議スルヲ要スル乎ヲ決ス、

第三十四條

各院、其ノ議員ノ權任ヲ監査ス、委任狀ヲ檢査スルヲ云、而シテ權任事件ニ付キ、起ル所ノ争訟ヲ裁判ス、

第三十五條

一人、兼テ兩院ノ議員タルヲ得ズ、

第三十六條

兩院ノ議員、政府ノ俸給セル官職ヲ受ル時ハ、即チ議員ノ列ヲ失フ、而シテ更ニ新撰ニ由ルニ非レバ、其ノ位ヲ復スルヲ無シ、

第三十七條

每會、各院、其ノ議長及副議長ヲ撰ヒ、而シテ事務室ヲ建設ス、議長一員、副議長二員、書記官四員、之ヲ事務室トス、

第三十八條

凡ソ議決ヲ舉ルハ、議票ノ全勝ヲ以テス、但シ撰舉及推薦事務室諸員及理事員ノ投票、ニ係リ、兩院ノ院則ニ由テ定ムベキ者ハ、例ニアラス、

推撰ヲ得ル者、兩人以上ニシテ、共ニ全勝ヲ得ザルキハ、再議シテ、優勝ノ法ヲ用フ、公評平分一兩議平分シテ、歸ノ時ニハ、其ノ議案ヲ一ハク、

各院、其ノ議負ノ過半衆、列會シタルニ非レバ、議決ヲ舉ルコトヲ得ズ、

第三十九條

公評ヲ發スルハ、高聲ヲ以テシ、或ハ起坐ヲ以テス、重キハ、高聲可否シ、輕キハ、或ハ起、或ハ坐シテ、以テ可否ヲ表ス、法案ノ総議ニ付テハ、逐條議決スル者ニ非ズシテ、全案ヲ総議スル者ヲ云、毎ニ呼名法ヲ用ヒ、名ヲ呼ビ以テ各員ノ出頭ヲ照査ス、高聲公評

ヲ以テス、○被撰入議長以下ヲ云ノ撰舉及推薦ハ、暗票ヲ用フ、無名ノ密票、

第四十條

各院、糾察ノ權ヲ有ス、諸大臣ノ犯事ハ、糾察シテ、罪ヲ論ズ、

第四十一條

法章ノ議案ハ、逐條公評シタルノ後ニ非レバ、兩院共ニ之ヲ許可スルコトヲ得ズ、

第四十二條

兩院ハ、逐條ヲ改竄シ、及條別シ、及已ニ草シタル改竄它ノ一院ヨリ、更ニ改竄條別スルノ權ヲ

有ス、

第四十三條

各民親ヲ兩院ニ向テ、上言書ヲ進ムルヲ禁ズ、
親身進獻スルヲ禁ズ、
但タ書記局ニ付進ス、

各院ハ、受ル所ノ上言書ヲ諸執政ニ送付スルノ

權ヲ有ス、○諸執政ハ、該院ノ求メアルゴトニ、必

ズ其ノ上言書中載スル所ノ事件ノ上ニ、辨明ヲ

ナスベシ、執政答
辨ノ務、

第四十四條

兩院ノ各議員ハ、其ノ職ヲ行フニ付キ、發言シタ

ル意見ニ係テ、糾治檢索セラル、議事自
由ノ權

第四十五條

兩院ノ各議員ハ、本院ノ許可ヲ經ズシテ、開會ノ

間、刑事ノ爲ニ、追糾拿捕スルヲ得ズ、但シ現行

犯ハ、例ニアラズ、

同前許可ヲ經ルニ非レバ、開會ノ間、兩院議員ニ

向テ、要償ノ勾留民法、償ヲ責
メテ勾留スヲ行フヲ得ズ、

兩院議員ノ勾留、及糾治ニ付キ、該院ノ請求アル

キハ、開會ノ間、之ヲ置閣ス、開會ノ前、勾留糾治ス
ル者ハ、開會ニ臨テ、之

ヲ置閣スルヲ云、現行犯ヲ以テ、捕
ニ就ク者ヲ置閣スル亦タ同シ、

第四十六條

各院ハ、院則ニ由テ、各其ノ權任ヲ施行スル方式ヲ定ム、

○第一類 代議士院

第四十七條

代議士院ハ、國民直チニ撰フ所ノ代人ヲ以テ成ル、獨乙國ノ如キハ、國民撰舉人ヲ撰ヒ、撰舉人、代議士ヲ撰フ、猶一問ヲ隔ツ、伯耳時ニ於テハ、國民即チ撰舉人ト云、故國民トハ、撰舉法定ムル所ニ直チニ撰フト云、國民トハ、撰舉法定ムル所ノ直税百フロラン以下、二十フロラン以上ノ歳額ヲ納ル者ニ限ル、又僱醫代言ヲ業トスル者ハ、撰

第四十八條

代議士ノ撰ハ、法章定ムル所ノ區分ニ依リ、地分テ撰舉ノ區及法章定ムル所ノ處ニ於テ之ヲ行ス、
區ノ首府ニ於テス、

第四十九條

撰舉法、民口ニ從テ、代人ノ數ヲ定ム、四萬人一負ノ比例ヲ越ルヲ得ズ、○撰舉法、又撰舉人タル爲ノ約束、刑人、貧人ハ、撰舉及撰舉ノ方法ヲ定ム、此レ撰舉法ニ詳ナリ、故ニ建國法ニ畧ス、

第五十條

撰ニ當ルベキ為ニハ、

第一 生レテ白耳時人タルヲ、若クハ大歸化

ノ許ヲ受ケタルヲ、外國人ヲ以テ大歸化ヲ

耳時人タル者ニ同シ、

第二 私權及政權ヲ享有スルヲ、民權ヲ全有

第三 満周二十五歳ナルヲ、

第四 白耳時國ニ居住スルヲ、

ヲ要ス

其ノ它、撰ニ當ル為ニ、一ノ約束ヲ望ムヲ得ズ、

撰ニ當ル為ニハ、
貧富ヲ論セズ、

第五十一條

代議士院ノ議員ハ、四年ヲ一期トス、○撰舉法ニ定メタル次序ニ從ヒ、毎二年、議員ノ半ヲ更撰ス、

第五十二條

代議士院各員ハ、開會ノ間、一月、二百フロランノ償給ヲ受ク、○會ヲ開ク所ノ都府ニ住ム者ハ、償給ヲ受ケズ、
償給ハ、
旅費ニ供ス、

○第二類 上院

第五十三條

上院ノ議員ハ、各州ノ民口ニ比例シ、代議士院員

ヲ撰フ所ノ國民、別ニ約束アルニ非ズ、之ヲ撰ス、

第五十四條

上院議員ハ、下院ノ數ノ半ニ居ル、計六十人

第五十五條

上院議員ハ、八年一期トス、撰舉法ニ定メタル次序ニ從ヒ、每四年、其ノ半ヲ更換ス、解散ノ時ニハ、全員ヲ解散ス、全員ヲ更換ス

第五十六條

上院議員ノ撰ニ當ル爲ニ、

第一 生テ白耳時人タルヲ、或ハ大歸化ノ許

ヲ受ケタルヲ、

第二 政權及私權ヲ享有スルヲ、

第三 白耳時國ニ住ムヲ、

第四 歳四十以上ナルヲ、

第五 白耳時國ニ於テ、直税千ポロラン以上

ヲ納ル、ト、産業税、亦其ノ中ニ在リ、

ヲ要ス、

但シ直税千ポロランヲ納ル、所ノ民、人口六千ニシテ、一員ヲ舉ルノ比例ニ充ルニ足ラザルノ州ニ於テハ、降テ其ノ下ニ取ル、

第五十七條

上院議負ハ、俸給及償給ヲ受ルコトナシ、

第五十八條

太子十八歳ニ至ル時ハ、上院議負タルコトノ權ヲ

有ス、○太子ハ、二十五歳ニ至ラザレバ、公評ノ權

ヲ有セズ、唯、院ニ臨ム而巳、公評可否ノ數ニ預ラス、

第五十九條

代議士院開會ノ時ニ非ズシテ、集會スルノ上院

ハ、固ヨリ其ノ效シ無シ、會ヲ開カサ

第二章 國王及諸執政

○第一部 國王

第六十條

國王ノ定權ハ、レオポル、ジョルツ、キレチアン、

フレデリク、ド、サクス、コナーレグ「陛下ノ直統、子

孫トス」直本生私生ヲ論セズ、大宗ノ序ニ依リ、長

トステ宗男々相傳ス、而シテ女子及女子ノ子孫ハ、

永久位ヲ踐ムコトヲ得ズ、

第六十一條

レオポル、ジョルツ、キレチアン、フレデリク、ド、

サクス、コナーレグ「陛下ノ男子無キ時ハ、陛下ヨ

リ兩院ノ承認ヲ得テ、其ノ世嗣ヲ冊立スルヲ得、兩院ノ承認ハ、次條ニ掲ケタル、方式ニ依テ議決シタル者ナリ、三分二以下全勝ノ方式、

若、上ノ式ニ從テ爲シタル冊立ナキ時ハ空位タルバシ空位ノ所ハ、兩院ヲ新徵シテ、兩院令議シ且ニ就キ處分ス、第ハ十五條ニ見ユ、

第六十二條

國王ハ、兩院ノ承認無クシテ、兼テ他國ノ首領タルヲ得ズ、

此ノ事ニ付テ、各院ハ、少クモ其ノ議員ノ三分ノ二出頭セザル時ハ、評議スルヲ得ズ、而シテ已

ニ評議シタル時ハ、少クモ投票三分ノ二ヲ合シタルニ非レバ、決ヲ舉クルヲ得ズ、

第六十三條

國王ノ身ハ、侵スベカラザル者トス、國王ノ諸執政ハ、責ニ任スベキ者トス、

第六十四條

國王ヨリ出ル文書ハ、一ノ執政之ニ副署シタルニ非レバ、施行ノカラ有スルヲ得ズ、執政ハ、唯副署シタルニ因テ、其ノ責ニ任ス、副署ナキノ文書ハ、執政其ノ責ニ任セズ、王命タルハ、効力ナシ、

第六十五條

國王ハ、諸執政ヲ命シ、及之ヲ免ス、

第六十六條

國王ハ、軍士ニ等位ヲ賜ス、

國王ハ、一切ノ政部官、及外交諸官ヲ命ス、但シ法

章定ムル所ノ特例ハ、限ニアラス、民選者、

其它ノ諸官ハ、法章ノ明文ニ據ルニ非レハ、國王

ヨリ命セズ、司法官ノ類、

第六十七條

國王ハ、法章ノ施行ノ爲ニ、要用ナル條例、及命令

ヲ作ル條例トハ、法章ノ施行ノ細目ヲ爲ス者、命令ト云
トハ、法章ノ施行ヲ置格シ、及曲免スルヲ得ズ、曲免
トハ、一人一家ニ私ス、

第六十八條

國王ハ、陸海軍ヲ指揮シ、戰ヲ宣告シ、和平、及連合、

及貿易ノ條約ヲ爲ス、○國益、及國安、之ヲ要スル和若

クハ戰ヲ要ス、ニ當テハ、國王直チニ、之ヲ兩院ニ照報シ、

及通告文案ヲ附ス、

貿易ノ條約、及國財ヲ費スベキノ條約、現今ニ費

至ルモ、後日或ハ之ヲ要スルニ若クハ、各民ニ關係

スベキノ條約ハ、兩院ノ承認ヲ得タル後ニ非レ
バ、其ノ力ヲ有セス
土地ヲ讓ル^ル、及易^ル、及附加ス^ルハ、法章ニ
依^ルニ非^レハ、之ヲ行^フ、^ル得^ズ、國王ハ、土地ヲ
シ、
何等ノ時ニ於^テモ、條約ノ密款ハ、本款ト相害ス
ル^ル、^ル得^ズ、締約ニ或^ハ麻^ル、^ル得^ズ、但、本款
ヲ塗塞ス、
ルニ近シ、

第六十九條

國王ハ、法章ヲ制可シ、及公布ス、制可セザレハ、法
章ヲ成サズ、故ニ

國王ハ立法權ノ一ニ居ル、公布、或
ニ依^テザ^レバ、施行ノ力ヲ有セズ、

第七十條

兩院ハ、毎年十一月第二ノ火曜日ニ會ヲ開クノ
權ヲ固有ス、王命ナシト云^レ、例ニ依^リ會
ヲ開クベシ、故ニ固有スト云、但シ其
ノ前ニ、國王ヨリ徵聚シタル時ヲ論セズ、
兩院ハ、毎年、必ズ四十日間以上、會ニ在^ルメシ、
國王ハ、閉會ヲ宣告ス、會ノ
終期、

第七十一條

國王ハ、兩院又同時ニ、或ハ各別ニ、解散スルノ權
ヲ有ス、紛議事ヲ沮ム時ハ、之ヲ解
散シテ、更ニ新議ヲ取^ル、○解散ノ文書

ニハ、四十日間ニ、解散ノ日ヨリ、撰舉人ヲ徵聚ス
ル_一、二月間ニ、議員ヲ徵聚スル_一ヲ載ス、舊員ヲ
ルノ後、急ニ新員ヲ徵聚スルヲ要ス、解散ス

第七十二條

國王ハ、兩院ヲ延留スル_一ヲ得、○然レハ兩院ノ
承認ナクシテ、延留一月ノ期ヲ越エ、及一會ニ兩
次ノ延留ヲナサシムル_一ヲ得ズ、

第七十三條

國王ハ、裁判官ノ判決シタル刑罪ヲ寬赦シ、及降
減スルノ權ヲ有ス、但シ諸執政ニ付キ、法章ニ定

メタル者ハ、例ニ非ズ 諸執政ノ罪ハ、國王赦減スル_一ヲ得ズ

第七十四條

國王ハ、法章ニ循ヒ、錢貨ヲ鑄造スルノ權ヲ有ス

第七十五條

國王ハ貴族ノ號章ヲ賜フノ權ヲ有ス、但シ附ス
ルニ、特權ヲ以テスル_一無シ、

第七十六條

國王ハ、武爵ヲ賜ス、但シ此ノ事ニ付キ、法章示ス
ル所ノ條規ヲ守ル

第七十七條

法章各王ノ宮費ヲ定ム、千八百六十五年ノ法ニ、歲額六十五萬圓トス、

第七十八條

國王ハ、建國法及建國法ニ由リ特ニ掲ケタル法章ニ、明カニ歸附スル所ノ者ヲ、除クノ外、它ノ權勢ヲ有セズ、王權ハ法ノ明文ニ據ル

第七十九條

國王歿スル時ハ、兩院ハ、遲クモ其ノ後十日間ニ、徵聚ヲ待タズ、會合ス、○若シ兩院其ノ前ニ解散セラレ、而シテ解散ノ令ニ載セタル新徵ノ期却テ第十日ヨリ後ニ在ル時ハ、新議負ノ交代スル

ニ至ル迄、舊議負其ノ職ヲ行フ、

若シ解散シタル者、一院ニ止マレ時ハ、該院亦上ノ

規則ニ依ル、它ノ一院ハ、常例ニ依ル、

國王歿スルノ日ヨリ始メ、嗣王、若クハ攝政ノ宣

誓即位ノ式ニ至ル迄、諸執政合シテ一會ヲ成シ、其

ノ任責ニ當リ、伯耳時國民ノ名ヲ以テ、國民ニ國

王ノ定權ヲ行フ、空位ノ間、大臣政ヲ行フ、

第八十條

國王ハ、全周十八歳ヲ以テ成年トス、

國王ハ、兩院合會ノ中ニ於テ、式ニ依リ、左ノ誓辭

ヲ宣ヘタル後ニ非レバ、位ヲ有セズ、
我、白耳時國民ノ建國法、及諸法章ヲ守ル事、及
國ノ獨立地ノ全局ヲ保ツ事ヲ誓フ、

第八十一條

若、國王歿シタル時ニ、嗣王未成年ニ係ル時ハ、攝
政及太保ヲ定ムル爲ニ、兩院合シテ一會ヲ成ス、
攝政ハ、國ノ政ヲ攝スル者、
太保ハ、王ノ身ヲ保スル者、

第八十二條

若國王、政ヲ親ラスルヲ能ハザルノ狀ニ在ル時
ハ、諸執政其ノ不能ノ情狀ヲ証驗セシメタル後

ニ、醫士ヲシテ速カニ兩院ヲ徵聚ス、○兩院合會
シテ、太保、及攝政ヲ定ム、

第八十二條

攝政ハ、必ス一人ニ任ス、衆臣共和シテ、政ヲ攝 ○
攝政人ハ、第八十條ニ示シタル誓辭ヲ宣ヘタル
後ニ非レバ、職ニ即カズ、

第八十四條

攝政ハ、建國法ノ中、一ノ改正ヲ行フコトヲ得ズ、

第八十五條

空位ノ時ニ當テハ、兩院合議シテ、全ク新徵シテ

ル兩院ノ會合ニ至ル迄、假ニ攝政ヲ定ム、○新徵ノ會合ハ、遲クモ二月内ニ於テス、○新徵ノ議員ハ、兩院合議シテ、定メテ假ニアラズ、空位ノ處分ヲナス、新王ヲ推立シ、若クハ共和ヲ公布ス、

○第二部 諸執政 司法外務工部兵務會計九六省又大執政アリ、

第八十六條

生テ白耳時人タル者、若クハ大歸化ヲ得タル者ニ非レバ、執政タルヲ得ズ、

第八十七條

王族ハ、執政タルヲ得ズ、

第八十八條

諸執政ハ、其ノ議負タル時ニ非レバ、兩院ニ於テ、公評ノ權ヲ有セズ、議負ヲ兼ルノ執政ハ、公評ノ權ヲ有ス、諸執政ハ、各院ニ參入ノ權ヲ有ス、諸執政ヨリ要求スル時ハ、議院必ス其ノ陳議ヲ聽クベシ、兩院ハ、諸執政ノ出頭ヲ求ムルヲ得、

第八十九條

何等ノ時ニ於テモ、國王言辭、若クハ文書ノ命令ヲ以テ、諸執政ノ責ヲ解クヲ得ズ、議院ノ論告ニ任ズ、

第九十條

代議士院ハ、諸執政ヲ論告シテ、之ヲ大審院ニ提
 喚スルノ權ヲ有ス、大審院ハ、全員合會シテ、大審
 テ數局トス、今、數局之ヲ裁判スルノ權ヲ專有ス、
 ノ全員ヲ合會ス、但シ被害人ヨリ要償ノ私訴
 大臣ヲ審判スルハ、但シ被害人ヨリ要償ノ私訴
 專ラ大審院ニ限ル、但シ被害人ヨリ要償ノ私訴
 罪犯ノ為ニ、損害ヲ受ケタル者、民法及執政ノ職
 ノ訟ヲ以テ、賠償ヲ要求スルヲ云、及執政ノ職
 務ノ外ニ犯シタル重輕罪、私罪ハ、平ニ係リ、法章
 ニ定ムベキ、可キトハ、未然ノ辭、其ノ法、未
 ノ例ニアラズ、職務罪ハ、國事ニ関ケル、殊ニ重大
 決ス、職務罪トハ、職務ニ付キ犯ス所、越權、賄、及
 諸連、建國法律、是レナリ、我カ律ノ所謂公罪ト同
 カラ

第三章 司法權

第九十二條

凡、民權ニ係リタルノ争訟ハ、專、諸法衙ノ管理ニ
 屬ス、下條代議士ヲ投換スルノ争ハ、地方議會之ヲ
 決スルノ類之ヲ政權ノ訟トス、本條之ニ對シ、云、

第九十三條

凡ノ政權ニ係リタルノ争訟ハ、法章ニ由テ定メ
 タル特例ヲ除クノ外、諸法衙ノ管理ニ屬ス、

第九十四條

一ノ法衙モ、一ノ裁判權モ、法章ニ據ルニ非レハ、
 設立スルコトヲ得ズ、○何等ノ名義タリモ、非常審

吏非常法衙ヲ設クルヲ得ズ、司法ノ權ヲ奪ヒ、以テ私ヲ濟スカ爲メナリ、

第九十五條

白耳時全國ノ爲ニ、一ノ大審院ヲ置リ、○大審院ハ、事件ノ案據ヲ受理ヒズ、唯聽斷、規程ニ違フ者トヲ受理シ、以テ法衙トシ、諸執政ノ裁決、法律ニ乖ク者トシ、諸執政ノ職務罪ハ、大審院其ノ事業ヲ推理ス、

第九十六條

諸法衙ノ訟廷ハ、公行トス、取人公聽、但シ其ノ世治、若クハ内行ノ爲ニ害アルベキ者ハ、例ニアラズ、國事犯、凶徒聚衆ノ類ハ、訟廷ノ公行、以テ世治ヲ破ラシテ恐レ、男女ノ訟ハ、以テ其人ノ体面ヲ破

ラシテ、而シテ其ノ時ニハ、裁判ニ由テ裁判宣告ノ式ヲ用

法衙ヨリ、公行ヲ停ムルヲ宣告ス、

國事犯、及著刻犯著刻犯大抵、ニ係テハ、陪審ノ合

員同意十二人同意ニ非レバ、閉戸ヲ宣告スルヲ

得ズ、閉戸ハ、公行ヲ

第九十七條

凡ソ裁判ハ、理由ヲ附ス、此ノ如キ事理ニ由テ、此ノ如ク判決スルヲ謂ナリ、裁判宣告ノ文ハ、必ス其ノ理由ヲ掲ク、

第九十八條

凡ソ重罪、及國事犯、著刻犯ニハ、陪審ヲ設ク、國事犯著

刑犯ハ、輕罪ト云、
亦陪審ヲ置ク、

第九十九條

保安法官及諸裁判所始審裁判所ヲ云、法官ハ、國王直
チニ之ヲ任ス、

控訴院ノ評事官即チ法官及始審裁判所ノ長官、及副

長官ハ、上院暨ヒ大審院ヨリ、各進ムル所ノ二ツノ

薦名表ニ依リ、數人ノ名ヲ薦メ、國王ノ撰ヲ取ル、

為ニシ、一ハ裁判所長官トス、國王之ヲ任ス、

此ノ二ツノ時ニ於テ、控訴院ノ評事官ト、始審一ノ

名表ニ載セタル撰士、又它ノ名表ニ載スルヲ

得

凡ソ薦名ハ、宣任ヨリ少ク凡十五日前ニ公布ス、

法院大審院控訴院ハ、法官中ヨリ、其ノ長官、及副長官

ヲ撰フ、自ラ其ノ長ヲ推撰ス、

第百條

法官ハ、終身ヲ以テ任ス、

法官ハ、審判ニ由ルニ非レバ、罪アリテ公然ト審判ヲ受ケタルヲ云、

職ヲ免シ、及職ヲ停ムルヲ無シ、職ヲ存シテ、務ヲ行ハズ、之ヲ停職

ト

新任人負アリテ、新員アルヲ以テ、而シテ本人許諾

スルニ非レバ、新員アリト云ハ、本人願
法官ノ轉
所アルヲ得ズ、

第百一條

國王ハ、法院大審院及裁判所始審裁判所ノ目代官ヲ
任シ、及之ヲ免ス、法官ハ、之ヲ命シテ、而シテ、免
又之ヲ
免ス、

第百二條

司法官ノ俸給ハ、法章之ヲ定ム、

第百三條

法官ハ、政府ヨリ俸給アルノ職ヲ兼ネ受クルヲ

ヲ得ズ、但シ法章ニ官相兼ネザルノ例ヲ特定ス
ル者ヲ除クノ外ハ、俸給ヲ受ケズシテ、職ヲ兼ヌ
トヲ得、法官兼テ職負タルトヲ得ザルノ
類、ニ官相兼ネザルノ定例トス、

第百四條

自耳時全國ニ三ツノ控訴院ヲ置ク、○法章、其ノ管
理ノ區分、及建置ノ地ヲ定ム、其ノ下、下等裁判
所、二十六ヲ置ク

第百五條

別法、軍法司ノ構制、及權任、軍法官ノ權務、及任期
ヲ定ム、

法章ニ定メタル各地方ニ於テ、商事裁判所ヲ置

ク、○法章、商事裁判所ノ構制、及ヒ權任、及、裁判官
任命ノ方式、及其ノ任期ヲ定ム、

第百六條

大審院ハ、法章ニ定ムタル方式ニ從テ、權限ノ争
ヲ決ス、各裁判所權
限ノ争ヲ云、

第百七條

各法院、各裁判所ハ、諸執政ノ指令、及普通ノ條例、
各州ノ條例、各邑ノ條例ニ於テ、並ニ議院ノ議決
政、若クハ地方官 其ノ法章ニ合スル者ニアラザ
レバ、處行セズ、
行政官吏ノ指令ヲ處行スル者ニシテ、
行政官吏ノ指令ヲ處行スル者ニシテ、

ア、
バ、

○第四部 州邑之制

第百八條

州及邑ノ制度ハ、法章之ヲ定ム、白耳時ノ法州ノ
下ニ邑アリ、
委員六員、州知事一員、大書記一員、州會ハ、州民ノ
判所ノ長官、副官ノ權任ハ、日、控訴院ノ評事官裁
負ヲ撰任ス、日、州官ノ應撰人、名ヲ薦ム、日、州屬吏
納ヲ統計シ、來年ノ事ノ願ヲ決ス、日、毎年、前年ノ出
俸給、及、養料ヲ定ム、日、州債、及、州産ノ賣買、易ヲ
許ス、日、道路、河渠ノ築造、及、州産ノ賣買、易ヲ
均賦ス、日、賦税、減免ノ願ヲ決ス、日、各邑ニ直税
條例、及、警察條例ヲ作ル、願ヲ決ス、日、一州内、治ノ
館造、及、州産賣、易、及、道路、河渠、會、自、其、中、六
王ノ認、可、ヲ、要、ス、州、行、事、ハ、州、會、自、其、中、六

久、直撰ヲ用ヒズシ
テ重撰ヲ用フ

第二、九ノ州邑ノ利益諸事ハ、州會及邑會ノ權任ニ屬ス、○但シ特例諸件ハ、法ノ定ムル所ノ規式ニ從ヒ、國王ノ許可ヲ要ス、

第三、州會邑會ノ會議ノ公行、○但シ法章其ノ限ヲ定ム、

第四、豫計來歲ノ統計前年ノ公布衆人ヲシテ

第五、州會邑會其ノ權限ヲ越エ、若クハ公利ヲ破

ラザル爲ニ、一州一邑ノ利益ヲ破ラズ、國王及立法

權大議ノ鈐轄事ノ全國ニ交渉シ、及大政ニ關ス

國王及大議院ノ議ヲ經、州邑ノ舉、大政及公利ニ妨クル者ハ、之ヲ制止スルヲ得、

第百九條

民籍生死婚ノ記錄及其ノ編冊ノ保藏ハ、專ラ邑

官ノ權任トス、僧門干預セズ、

第四章 會計

第百十條

國稅ハ、法章ニ由ルニ非レバ、定ムルヲ得ズ、必

議院ノ議ヲ經ルヲ云、

州稅ハ、州會ノ承諾ニ非レバ、定ムルヲ得ズ、

法章、州稅邑稅ニ係テ、其ノ經驗ニ據リ已ムルヲ

得ザル者ノ特例數條ヲ定ムベシ、州會ノ承諾ヲ必要シ得ザル者

第百十一條

國稅ハ、毎年公議ス、議院ニ於テ議決ス、國稅ヲ定ムルノ法章ハ、其ノ力ヲ有スル一、一年ニ限ル、一議數年ニ涉、但シ一案再用スル者ハ、例ニアラズ、前年ノ法章更ニ新議ヲ經ニアルズ、後年ニ適用スルヲ云、

第百十二條

租稅ニ條テ、特免アル一ヲ得ズ、○租稅ノ免除、及減分ハ、法章ニ由ルニ非レバ、設クル一ヲ得ズ、特免

ハ、中古貴族稅ナキノ類、免除減分ハ、老廢孤貧ニ施スノ類、

第百十三條

法章明カニ定メタル特例ヲ除クノ外、國州邑ノ正稅ニ非ズシテ、國民ヨリ一ノ課賦ヲ責ムル一ヲ得ズ、○現ニ行ハレタル防海堤稅、河渠稅、普通法章ニ從フ者ヲ除クノ外、更ニ新法ヲ加フル一ヲ得ズ、

第百十四條

國庫ヨリ支出スベキ養料、老退官員養料、賞賜ハ家眷養料ノ類、法章ニ据ルニ非レバ、給與スル一ヲ得ズ、

第百十五條

毎年、兩院ハ、統計^{前年ノ}出入、ノ法章ヲ決シ、^{検査ノ後、}統計ノ法
章^成及豫計^{來歲ノ}出入、ヲ評定ス、○政府一切ノ出納
ハ、必ス豫計表及統計表ニ載スベシ、^{出納ノ}公布、

第百十六條

統計院ノ官負ハ、代議士院之ヲ撰任シ、法章定ム
ル所ノ任期ヲ以テ代任ス、^{一任、}六年、
統計院ハ、政部全局ノ出納、及國庫ヨリ支出スル
一切ノ會計ヲ検査清算スルニ任ス、○豫計表ノ
支費ニ於テ一項ノ過費アルヲナク、^{實費、定額}又
ヲ越エズ、又

一ノ那移アルヲ無キヲ監ス、○政府各部ノ統
計ヲ決シ、就テ一切ノ憑据、一切ノ文票ヲ拾聚ス
ルニ任ス、○國計全表ハ、^{毎年統計ヲ公}統計院注
明ヲ加ヘ、兩院ニ付シ、議ヲ取ル、
統計院ノ構制ハ、法章之ヲ定ム、

第百十七條

僧官ノ俸給養料ハ、政府ヨリ支出シ、其ノ定額ハ、
毎年豫計表ニ載ス、^{僧門私産ノ}弊ヲ除ク、

第五章

公力^{兵ヲ名ケテ公力トスル者}ハ、國民ヨリ出ル兵力ノ義

第百十八條

徵兵ノ規程ハ、法章之ヲ定ム、○法章又軍士ノ陞進法、及權義ヲ定ム、

第百十九條

軍兵ノ點徵ハ、毎年評決ス、○點徵ヲ定ムルノ法章ハ、其ノカヲ有スルヲ、一年ニ限ル、但シ一案再用スル者ハ、例ニアラズ、

第百二十條

備警兵ノ構制權任ハ、法章ニ屬ス、法章其ノ構成定ムルヲ云、○白耳時備警兵步千五百六十二人、騎千百十四人、

第百二十一條

外國ノ軍隊ハ、法章ニ由ルニ非レバ、白耳時ノ事役ニ從フヲ得ズ、カヲ外國ニ假白耳時ノ地土ヲ侵佔シ、及經過スルヲ得ズ、臨時外國兵ノ内スルヲ許スニハ、必ス公議ヲ經、

第百二十二條

民兵ヲ設ク、ナ兵、其ノ構制ハ、法章之ヲ定ム、○會計軍吏ヲ除クノ外、允ソ軍官甲比丹ニ至ルマテ、皆兵員之レヲ任ス、國兵ト同

第百二十三條

法章ニ据ルニ非レバ、民兵ヲ運轉スルヲ得ズ、
民兵ハ、各地警備ノ為ニ設ク、故ニ各地ニ土着ス、
其所ニ轉往シテ、戰守ノ用ニ供スルヲ得ズ、但
シ時機ニ随ヒ、議院議定ス
ルキハ、轉往スルヲ得、

第二百二十四條

法章ニ定メタル處分ニ由ルニ非レバ、軍士其ノ
官等榮章、養料榮章ハ、記
念牌ノ類、ヲ奪ハル、トナシ、

第六章 通則

第二百二十五條

白耳時國民ハ、紅黃赤ノ三色旗ヲ用フ、而シテ軍旗
ハ、合爲強ノ三字ヲ銘シタル獅子ヲ用ス、

第二百二十六條

^{ブリュッセル}比利悉府ハ、白耳時ノ都ニシテ、政府ノ在ル所ト
ス、

第二百二十七條

法章ニ据ルニ非ズシテ、誓ヲ命スルヲ得ズ、神
誓
ルヲ重ス、○法章、誓式ヲ定ム、

第二百二十八條

白耳時ノ國土ニ在ル所ノ凡テノ外國人ハ、通メ
身体及財産ニ向テ與フベキ保護ヲ受ク、内國人
ト異ナ
ルシ、但シ法章定ムル所ノ特例數條ヲ除ク、外
國
ト
罪

犯回送ノ約、及危害ナル外
國人ヲ放逐スルノ法ノ類、

第二百二十九條

凡ソ法章及王命及普通條例、普通條例ハ、政府ニ
出テ、全國ニ通行ス
ル及州邑ノ條例ハ、州會邑會ヨリ發
スル各地ノ條例、並ニ法章定
メタル規式ニ從ヒ、公布シタル
後ニ非レバ、必
行ノ義務タラズ、

第三百十條

建國法ハ、其ノ全部局部ヲ論セス、之ヲ置格スル
ヲ得ズ、置格ノ施行ヲ停
ムルヲ得ズ、

第七章 建國法修正

第三百三十一條

立法權ハ、建國法中某條ノ修正ヲ要スルヲ宣
告スルノ權ヲ有ス、國王及上下院
ヲ立法權トス、

此ノ宣告ノ後、兩院即チ解散ス、令アルヲ待タズ、
第七十一條ニ循ヒ、兩院ノ新負ヲ徵聚スベシ、
新徵ノ兩院ハ、國王ト通同シテ、修正ノ條件ヲ議
ス、

此ノ時ニ、各院若少クモ其ノ議負三分ノ二出頭
セザルキハ、議事スルヲ得ズ、而シテ少クモ投
票三分ノ二ヲ合セザル時ハ、變改ヲ許スヲ得

ズ、之ヲ慎重ス、故ニ
議事特例ヲ用フ、

第八章 假則

第三百三十二條

國王第一次推撰ノ爲ニハ、第八十條ノ第一項國王
十八歳ヲ以テ成ニ依ルニ及ハズ、是レ子ムル
年トスルノ項ニ依ルニ及ハズ、是レ子ムル
撰スルカ爲ニ特ニ設ケタルナリ、

第三百三十三條

千八百十四年一月一日ヨリ前ニ、白耳時ニ來リ、
住居ヲ定ムル者ハ、生レテ白耳時人タル者ト同
ク視ル、然ルニ其ノ人、本條ノ恩ヲ被ムルベキノ

情願ヲ宣告スルヲ待ツ、

此ノ宣告ハ、丁年人ノ爲ニハ、本建國法人民必行
ノ義務タル日ヨリ數ヘ、必ス六月内ニ之ヲ爲ス
ベシ、而シテ未丁人ノ爲ニハ、必ス其ノ丁年ニ至
リタル一歳ノ内ニ、之ヲ爲スベシ、

此ノ宣告ハ、本人住居ノ地ノ本屬州官ニ向テ、之
ヲ爲スヘシ、○宣告ハ、己レ自ラ之ヲ爲シ、若クハ
公正ナル委任專狀ヲ有スル代理人、之ヲ爲スベ
シ、公正トハ、公証人ノ証記シタル
者、專トハ、它ノ事件ト附帶セズ、

第三百三十四條

法章ニ由テ掲定スルニ至ル迄、代議士院ハ、執政
 ヲ論告スル爲ニ、及大審院ハ、其ノ罪ヲ斷シ刑ヲ
 科シ、之ヲ判決スル爲ニ、並ニ專行之權ヲ有スベ
 シ、專行之權トハ、其ノ所見ニ從ヒ、專獨處行シ、它
 ノ檢束ヲ受ケザルヲ云、此ノ條、後日一法ヲ設
 クルヲ待テ、佛ノ法ニ倣ヒ、大臣犯罪ノ爲ニ
 特法院ヲ置キ、特陪審ヲ設ケシトスルヲ云、
 然レモ刑法特ニ掲ケタル事件ニ非レバ、罪ヲ科
 スルニ禁役ヲ越スルヲ得ズ、禁役ヲ越スル以上ハ、
 蓋シ特陪審ヲ設
 ケシカ爲ナリ、
 臨時議ヲ待テ處行ス

第三百三十五條

諸法院大審院 控訴院ノ官吏ハ、法章ニ由テ掲定スルニ

至ル迄、現在スル所ニ依ル、

此ノ法章ハ、必ズ議院第一會ノ間ニ議定スベシ、
千八百三十二年八月即チ建國
 法公布ノ明年ニ於テ議定ス、

第三百三十六條

上條ト同時ノ議會ニ於テ、又一法ヲ議シ、大審院員
 初次ノ撰任ノ規程ヲ定ムベシ、大審院創始ニ條
 故ニ初次ノ撰
 任ヲ
 要ス、

第三百三十七條

千八百十五年八月二十四日ノ根本法ヲ廢シ、并
 ニ州法邑法ヲ廢ス、○然レモ州官邑官ハ、法章別

ニ定ル所アルニ至ル迄、其ノ權任、舊ニ依ル、

第三百三十八條

建國法施行ノ日ヨリ始メ、建國法ニ反シタル一切ノ法章、王命、指令、條例、及其ノ它ノ文書ハ、之ヲ廢ス、

補則

第三百三十九條

國會ハ、左ノ事件ニ付キ、所及急迫ノ期シ、各別ノ法章ニ由テ掲定スルヲ、要用ナルヲ宣布ス、

第一 著刻著刻ノ規則

第二 陪審ノ構制

第三 會計

第四 州邑ノ構制

第五 諸執政及它ノ政部官ノ任責

第六 司法ノ構制

第七 俸給表ノ修正

第八 兼任一人數官ノ兼任ノ弊ヲ避ル爲ニ適當ノ法

方

第九 破産及緩催法ノ修正

第十 軍兵ノ構制 ○陞進及老退ノ權利 ○軍律

第十一 諸定法書ノ脩正

王國建國法第二終

書白耳時建國法後

白耳時ハ、實ニ歐洲各邦ノ中、最モ新ナ
ルノ國タリ、蓋シ國小ナル者ハ、善ヲ爲
スヲ易シ、而シテ興ルヲ新ナル者ハ、集メテ
大ニ成ス、是レ白耳時ノ建國法、論者獨リ
其盡善盡美ヲ推ス所以ナリ、地八州ニ
過キズ、口五百萬ニ止マル、而シテ政治ノ
醇ニシテ、雜フルニ教門ヲ以テセズ、自由
ノ盛ニシテ、加フルニ覇術ヲ以テセズ、其

2
94

御用御書物師

東京 日本橋元四日市

林 半兵衛

止 言 法 書

大國ニ介マリ、仍^ホ獨立ヲ全スル、蓋ン偶
然ニアラス、國旗ノ銘ニ曰、合爲強ト、至
レル哉、言ヤ、若夫、兵力已ニ自ラ衛ルニ
足ラズ、法治以テ自ラ立、^ツナシ、而シテ又
分崩離析シ、共同事ヲ濟ス^レ能ハズ、是
其ノ波蘭土タラザル者、幾ント希ナリ、

明治八年二月

止

